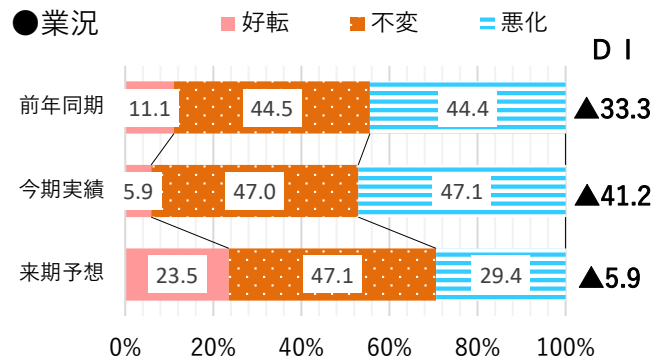


運輸・倉庫業

業況、売上、採算

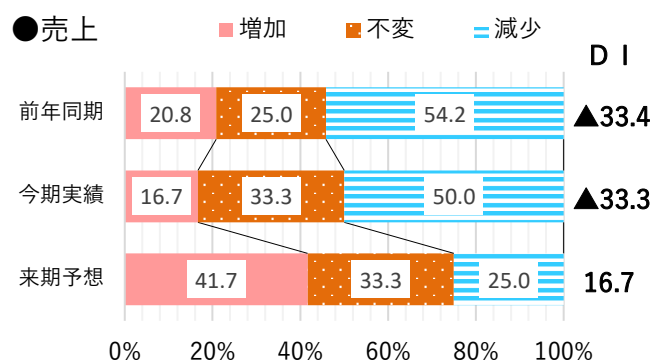
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲41.2で、前年同期（2021.1～3）と比べ7.9ポイント低下しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



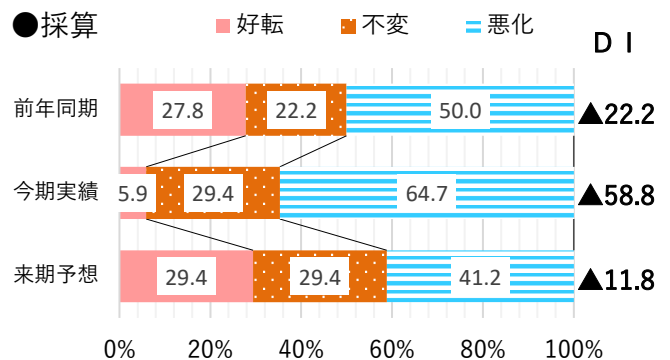
今期の売上高DIは▲33.3で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

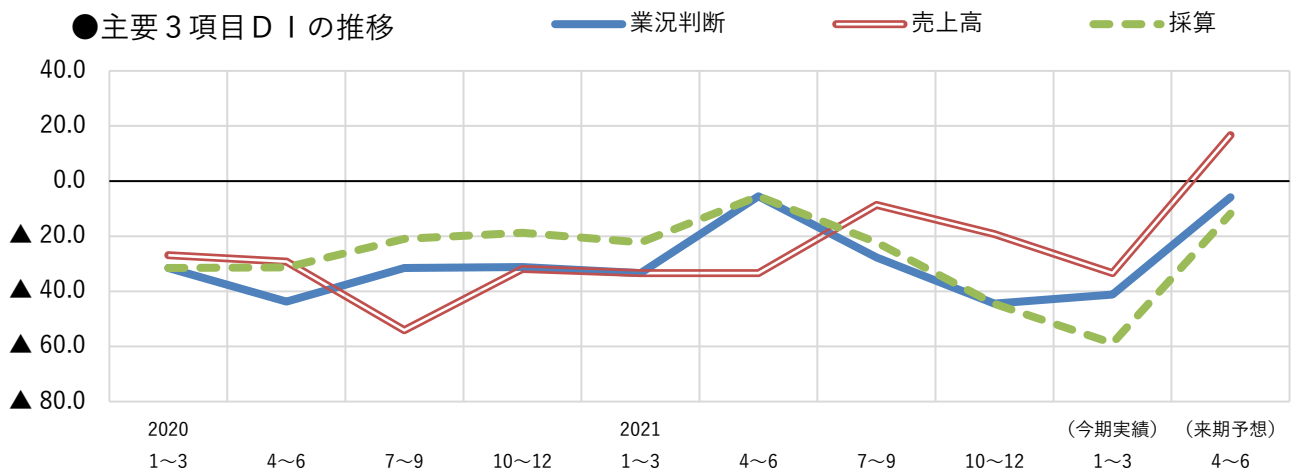


今期の採算DIは▲58.8で、前年同期と比べ36.6ポイントと大幅に低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



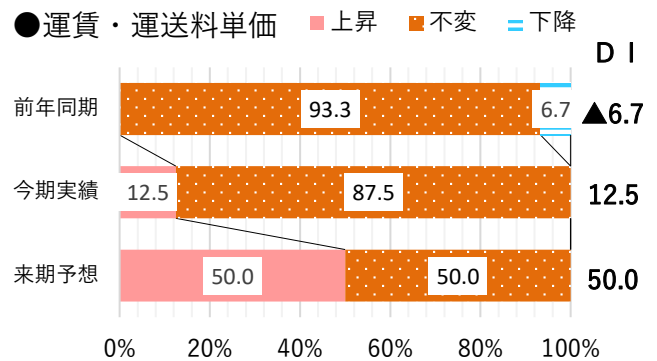
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

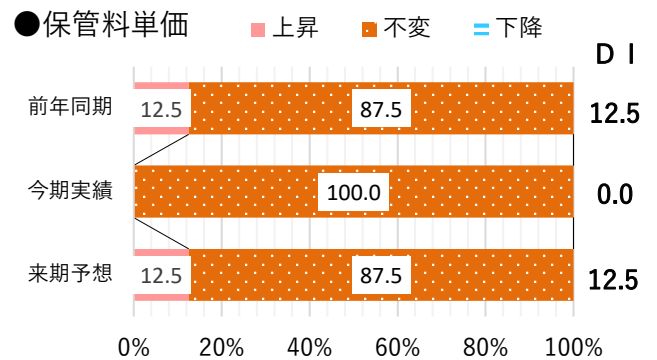
今期の運賃・運送料単価DIは12.5で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が大幅に強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

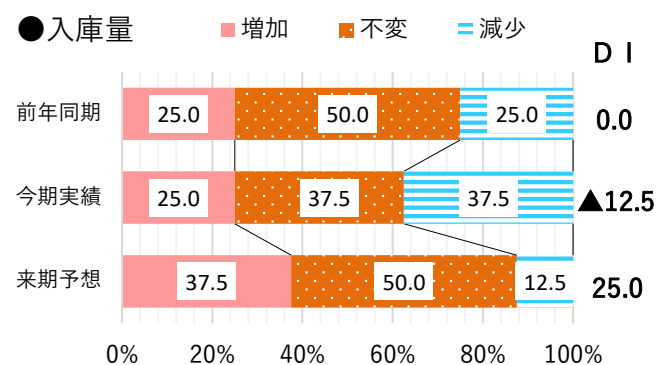
来期は、保管料単価がプラスに転じると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

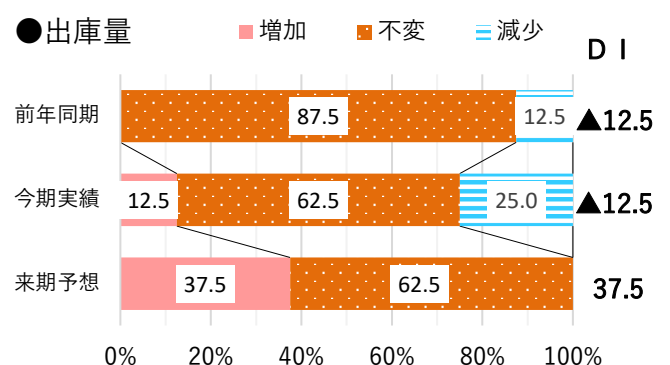
今期の入庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



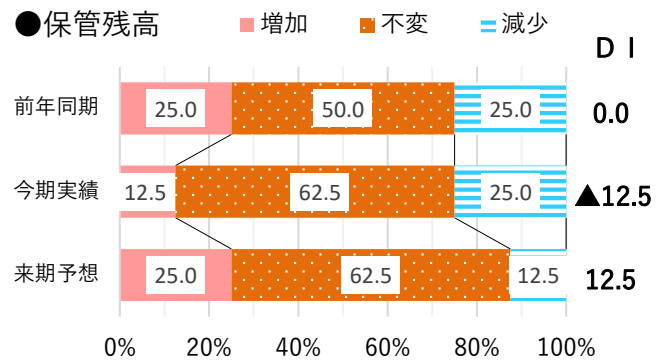
今期の出庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、出庫量が大幅なプラスに転じると予想しています。



今期の保管残高DIは▲12.5で、前年同期と比べ12.5ポイントと低下し、マイナスに転じました。

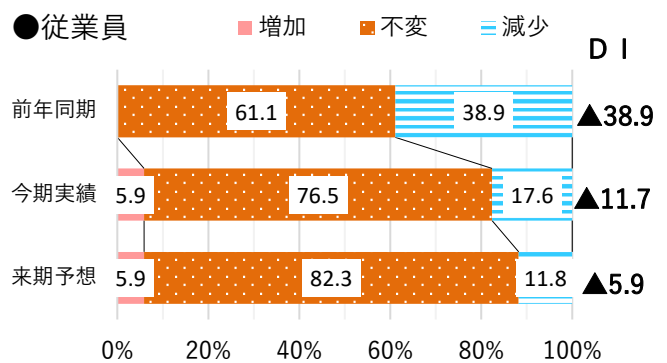
来期は、保管残高がプラスに転じると予想しています。



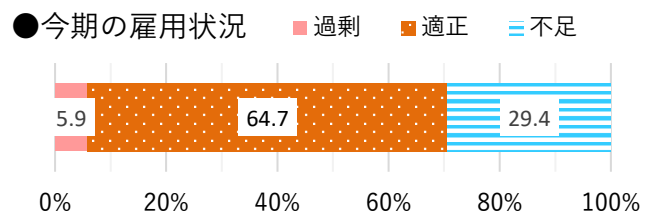
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.7で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.9%、適正であると回答した企業の割合は64.7%、不足していると回答した企業の割合は29.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の47.0%を占めています。

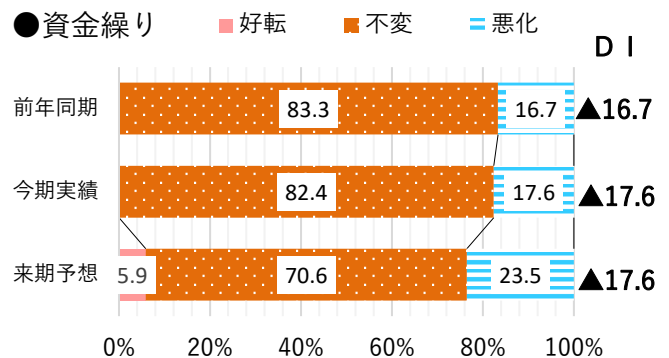
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	8
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	1

資金繰り、設備投資

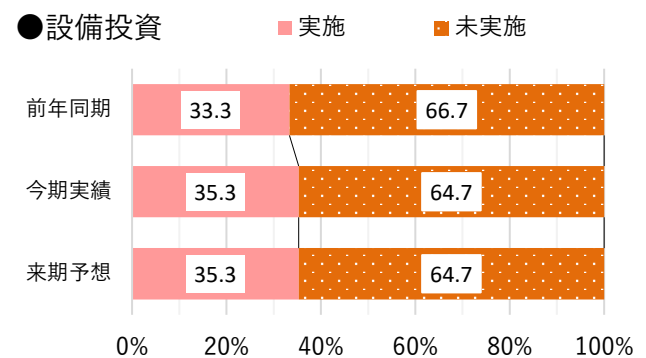
今期の資金繰りDIは▲17.6で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



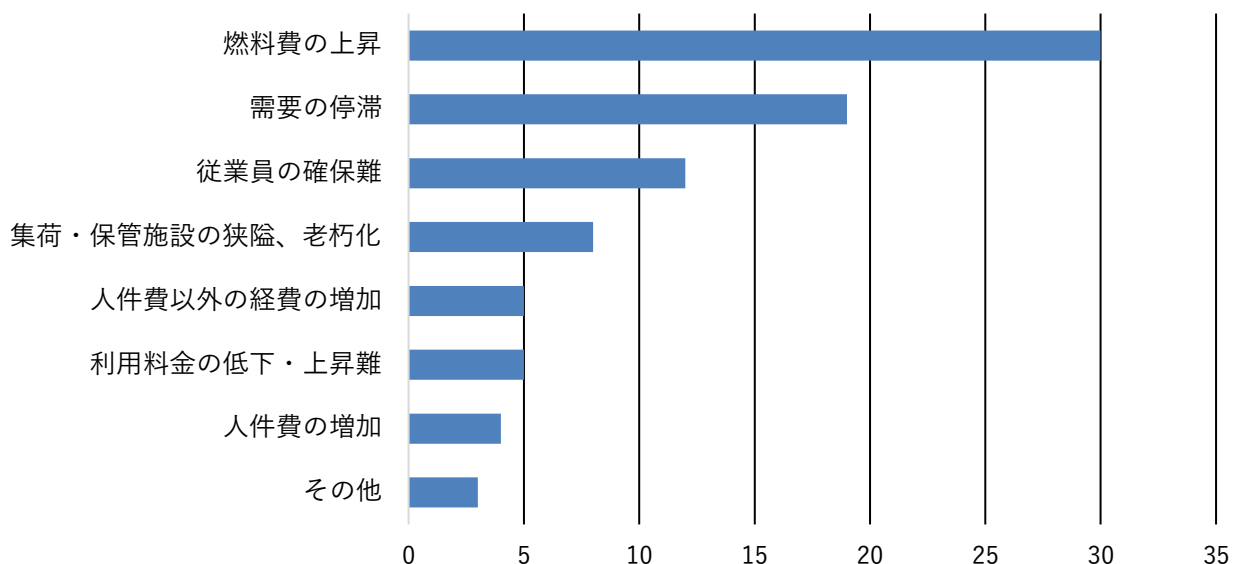
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、
「付帯施設」、「OA機器」(同位)、2位が「集荷・保管施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.3%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 貨物減少により、売上が減少した。乗務員不足と燃料価格の高騰で、業況が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料費が大幅に上昇したが、運送料への転嫁は難しい。この状況は当面続くと思う。(道路貨物運送)
- 出荷量の減少による売上の減少と燃料高騰の影響で、利益が減少した。(道路貨物運送)
- 軽油価格の高止まりにより、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料価格の高騰が課題だ。(道路貨物運送)
- 経済回復のスピードが、変異株の感染拡大のスピードに追いついておらず、状況は厳しさを増している。難局を乗り切る方法を考えたい。(道路旅客運送)
- 観光客の減少と、まん延防止等重点措置によって夜間の利用者が減少したため、売上が大幅に減少した。原油価格の上昇に伴い、LPガスも値上げしたため、燃料費の負担が大きい。(道路旅客運送)
- コロナ禍による地域経済の縮小や、消費マインドの冷え込みにより業況の悪化が続く。(道路旅客運送)
- 燃料価格が上昇し、売上が減少した。(道路旅客運送)
- コンテナ船の入港遅れのため、入庫貨物は減少したが、年度通しての業況に大きな変化はない。(倉庫)
- 入出庫量に大きな変化はなかった。(倉庫)
- 依然として新型コロナウイルスの影響による旅客の減少が続いている。経済の停滞に伴い、貨物の動きも停滞している。燃料費の高騰も業況の悪化につながった。(水運)

[来期の業況について]

- 燃料費の高騰が続き、タイヤ等車両消耗品の価格引き上げが予想される。(道路貨物運送)
- 燃料価格の高騰や貨物の減少等、今期と同様の状況が続くと思われる。(道路貨物運送)
- 料金交渉を進めて、利益の増加を目指す。(道路貨物運送)
- 軽油価格の高止まり傾向が続くと思う。(道路貨物運送)
- 運賃改定の影響で、乗り控えも想定される。現在の利用客数や燃料費の上昇傾向を考えると、採算の好転や資金繰りの改善は限定的だろう。(道路旅客運送)
- 従業員不足や、燃料等の経費の高騰により、厳しい業況を見込む。(道路旅客運送)
- 売上の回復を予想する。(道路旅客運送)
- 入庫が延期していた貨物が到着するため、売上の増加を見込んでいる。(倉庫)
- 入庫量の減少と、出庫量の増加を見込む。(倉庫)
- 燃料費の上昇を見込む。今後のロシア貿易の見通しが立たない。(港湾運送)
- 運行計画、配船の減少が見込まれる。コロナ禍や東欧情勢の悪化、コンテナ不足による物流の停滞が続くと思われる。昨年の干ばつの影響で、農産物の輸送量が減少すると思われる。(水運)